

(様式3)

農業研究成果情報

No.470

(平成22年5月)分類コード 02-10

熊本県農林水産部

果皮色によるナシ「秋麗」の収穫適期

「秋麗」は、ていあ部の果皮色がニホンナシ地色カラーチャート値で2.5以上で収穫したものが、平均糖度が高く、かつ糖度14%以上の果実の割合が高い。また、食味・食感・果皮色ともに10日程度の良食味期間を確保するためには、果皮色3.0以下での収穫が必要である。したがって、「秋麗」は果皮色2.5~3.0が収穫適期である。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:岩谷章生)

研究のねらい

平成17年に県推奨品種になった「秋麗」は、高糖度で食味が極めて優れる青ナシである。本県主要産地における「秋麗」の収穫盛期は平年8月下旬であるが、生育の早い年には盆前に少しでも出荷しようとする心理から早採り傾向となり、消費者の評価を落とす恐れがある。そこで、「秋麗」の収穫適期の判断基準を作成することにより、食味のばらつきが少ない高品質な果実を連年生産できる体制を整える。

研究成果

1. 果実ていあ部の果皮色がニホンナシ地色カラーチャート値で2.0の果実は、2.5以上の果実に比べて平均糖度がやや低く(図1)、糖度14%(Brix)以上の果実の割合もやや少ない(図2)。また、2.5~4.0の平均糖度に差は無く、糖度14%以上の果実の割合は2.5~3.5までほぼ同じである。なお、4.0では糖度14%以上の果実の割合は2.5~3.5より若干少ない。
2. 果皮色は収穫後4日ごとに0.5程度ずつ進む(図3)ため、次第に黄色味が強くなり、過熟と判断されやすい果皮色4a(写真1)には収穫時2.5では12~13日、3.0では8~9日、3.5では5日で到達する。
3. 収穫後の果肉硬度が4lbsに低下するのは、果皮色2.0と2.5では収穫14日後であるが、果皮色3.0では10日後、3.5では9日後と早めに低下する(図4)。
4. 収穫時と食感や食味が遜色ない「食味優良果」が8割程度残っている期間は、果皮色2.0で収穫後13日間、果皮色2.5で12日間、果皮色3.0で9日間、果皮色3.5で7日間程度である(図5)。

普及上の留意点

1. カラーチャートによる比色は、果実ていあ部のさびの無い部分で行う。
2. 樹上で比色する際、光の当たり具合の影響により見え方が大きく変わる。したがって、手で日光を遮りながら比色し、見え方にズレが生じていないか収穫後に室内で再度確認する。



2.0

2.5

3.0

3.5

4 a

写真1 「秋麗」のていあ部果皮色(ニホンナシ地色カラーチャート値)別の果実外観

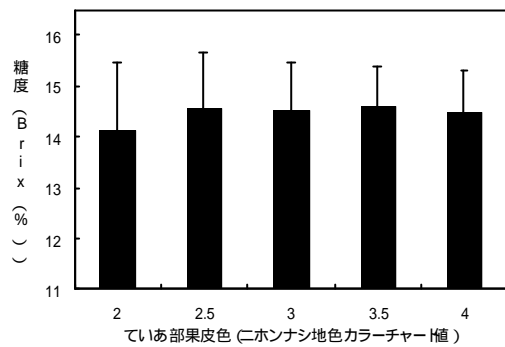


図1 秋麗」収穫時果皮色別の糖度平均

*果皮色はていあ部のさびの無い部分で比色調査した。
*調査には果樹研究所内の露地栽培樹の2005,2007,2008,2009の収穫果 (n=527) を供試。

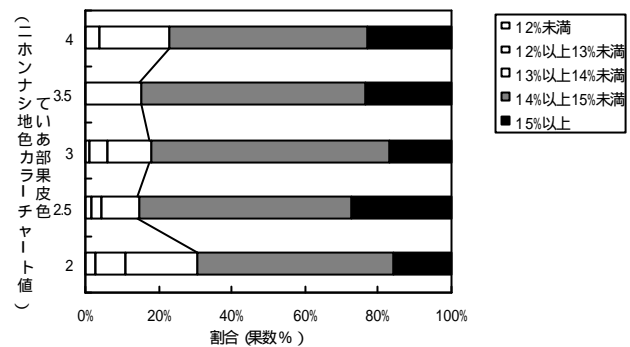


図2 秋麗」収穫時果皮色別の糖度分布

*果皮色はていあ部のさびの無い部分で比色調査した。
*調査には果樹研究所内の露地栽培樹の2005,2007,2008,2009の収穫果 (n=527) を供試。

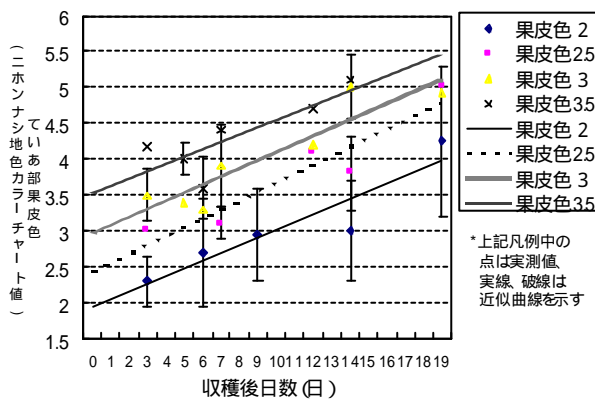


図3 秋麗の収穫時からの果皮色推移

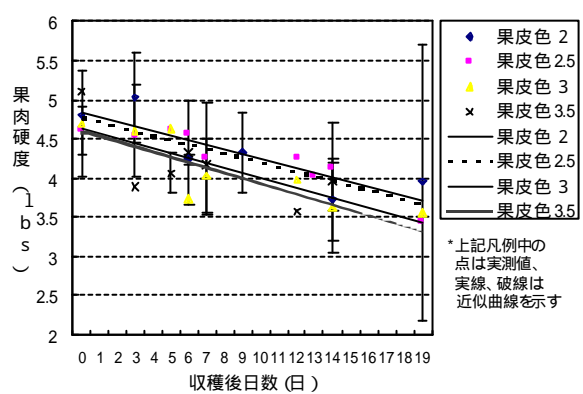


図4 秋麗の果皮色別、果肉硬度の推移

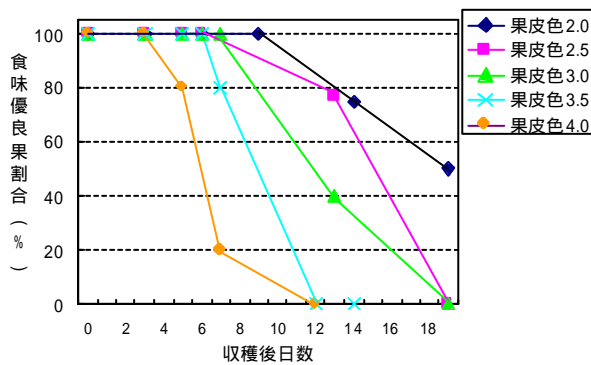


図5 秋麗の果皮色別、食味優良果割合の推移

*「食味優良果」は官能調査により、食感、食味とも収穫期と同程度であった果実